

改訂 いま古流剣術が面白い——新陰流兵法とは何か①

丹下 睡猫子

(新陰流兵法上泉会会長)

剣術と剣道の違い

随筆の内容は自由で良いとのご指示だが、末輩が俳句の話を書くわけにもいかない。そこでいっそのこと皆さんが最も知識も少なく、関心も薄いであろう古流剣術なかならず新陰流兵法の事を書こうかと思う。武術の世界は、俳句とは対極の位置にある存在である。だから、かえって珍しく思っ頂けるかもしれない。それに古流剣術というものに筆者は五十年近く関わってきたので、皆さんよりは多少は詳しい筈である。

ところで剣術にわざわざ古流と冠したのは、剣術と言うと現代剣道と混同する人が大抵だからだ。そこで話の順序として、まずは古流剣術と現代剣道との違いを説明しよう。

江戸時代以前に武士が嗜んでいたのは剣術である。剣道ではない。剣道は大正時代になって作られた試合中心の竹刀による競技だ。時代劇や時代小説をお好きな方が見たり読んだりしている斬り合いシーンは、いずれも古流剣術同士の戦いである。

幕末京都で活躍した新選組の近藤勇も土方歳三も沖田総司も江戸牛込の試衛館という古流剣術の道場の師弟である。流派は天然理心流。当時竹刀の試合が流行していて、時々道場荒らしがやってくる。負けると指導料の金を包んで引き取ってもらわなければならない。そうでないと看板を外して持っていかれてしまう。

さて、近藤も土方もこの竹刀試合（撃剣と呼ばれた）が大の苦手だった。試合をするとすぐに打ち込まれてしまう。そこで試合の申し込みがあると、近所の他流の道場に頼んで、代わりに試合をしてもらった。で本人たちはどこかに避難していた。それほど竹刀の試合は弱かったらしい。ところがいざ京で新選組を結成して、実際の真剣の斬り合いになると、向かうところ敵なしの強さであったことは御承知の通りである。この逸話は古流剣術と道場剣法の違いを垣間見させてくれる。

そこで前に戻って剣術と剣道の違いだが——。

剣術とは、武士が戦場で生死を掛けた戦闘に生き残るための太刀の技術をいう。一方、剣道は剣術の技法の一部分をルール化して、打突箇所を一定に定め、時間も限定して優劣を競うゲームである。ルールがあるから武術ではない。スポーツというべきであろう。

だからこの二つは同根ではあるが、実際のあり方は似て非なるものである。(続く)